

実証試験の効率化に向けた考え方の整理

〔 1 〕 実証試験の実施方法

No	項 目	内 容
1.	申請資料の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証試験の効率化をすすめるために、<u>実証申請者に提出してもらった資料・データの内容を充実</u>させる。 ・ 既設装置での実証試験の場合は、<u>自社等で採取した当該装置の稼働データおよび処理性能データの事前提出</u>を条件とする。 ・ 新設装置での実証試験は、<u>同一型式の既設装置データの提出</u>を条件とする。実績データがない場合は工場試験データ等、関連データの提出を条件とする。 ・ これら資料・データを参考に試験計画を作成する。
2.	試験場所の条件緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路未整備地域での実証試験が困難な場合があるため、<u>類似の地域での実証試験を認める。</u>
3.	試験期間の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置場所により気象条件や利用条件が異なるため、申請技術の特徴や提出データにより、<u>処理性能が適切に判断できる期間</u>とする。
4.	室内環境計測の簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内環境に影響する日射遮光、外壁断熱性能などを評価するため、室温計測を実施する。<u>湿度計測は実施しない</u>
5.	処理性能実証項目のウェイト付	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>試料分析項目は現行どおり</u>とし、現場で実施できる<u>簡易測定項目を積極的に導入</u>する。
6.	試料採取回数の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 装置性能を適切に把握することを前提として、<u>専門家が現場に行く回数を削減</u>する。
7.	越冬試験の簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処理方式や試験場所によって<u>越冬試験の必要性が異なるため、本試験はオプションとして位置付け</u>、方法を検討する。

〔 2 〕 実証試験の実施体制等に関する今後の検討事項

No	項 目	内 容
1.	フォローアップ調査	<u>実証済みの装置を部分的に改良した場合は、簡易的な試験方法で実証する方法を検討</u> する。